

2020年1月

韓国の絵本

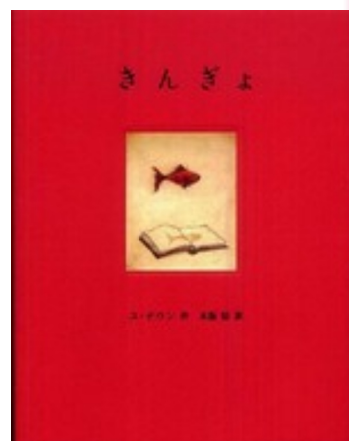
眞鍋由比

今月のはと時計は韓国特集です。はるか昔から日本は韓国にはお世話になっていて、お互いにいろいろ影響しあっているんだということを再認識してほしくて特集しました。映画「トンマッコルへようこそ」のDVDも、ぜひ借りてみてください。ファンタジーではありますが、戦争に引き裂かれる悲しさ愚かさを描いています。ポップコーンのシーンとか、笑えて好きなんですけどね。

はと時計1月号にかけなかった絵本をこちらに紹介します。

『きんぎょ』 ユ・テウン作 らんか社 2009年

温かい紙の質感、繊細な影の描き方、細い輪郭の絵。大切に愛されて作られた絵本です。おじいちゃんが勤めている森の奥の古い図書館にきんぎょを連れてきたジェジェ。暗闇が怖くなってきんぎょに読み聞かせしてあげようと思ったら、きんぎょが赤い本の中に入ってしまっ…！

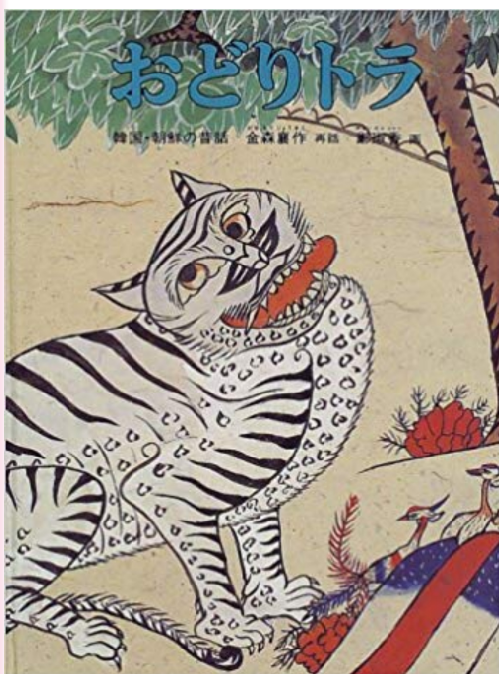


『おどりトラ』 韓国・朝鮮の昔話 金森襄作 再話 鄭★香画 福音館書店 1997年

韓国にいる白いトラが主人公です。平昌オリンピック（2018）のマスコット「スホラン」のようです。

トラ仲間でも踊ることが好きだった「おどりトラ」はいつでもどこでも踊るので獲物を逃がしてしまい、仲間から山を追われます。でも彼は踊りをきわめて、魚やコメが取れないときに彼が踊ると、たくさん収穫できるようになったし、こどもの病気もおどりトラが踊って祈ると治るようになります。

人間の村では神様の使いとして大歓迎を受けるのですが、山のトラ仲間のところに戻って、仲間のトラが人間を食べようとしています…。



トラは一休さんが屏風のトラを追いつき笑い話などで有名ですが、日本にはトラはいません。（動物園は別）でも韓国にはトラがいて、昔話やマスコットになるくらい人気なんですね。ソウルオリンピックのマスコット（1988）のホドリは正直かわいいと思えなくて、必ずしも可愛いものがマスコットになるわけではないんだと思いました。長野オリンピックのスノーレッツ（1998）やロンドンオリンピックのウェンロック（2012）を思い出しても、そうですよね。

ところで今回は日・中・韓平和絵本のシリーズもはと時計1月号で紹介しています。全部で10冊あります。それぞれの国の絵本作家が平和を訴える絵本を一人一冊作りました。浜田桂子さんは当初、「へいわってせんそうするひこうきがとんでこないこと」と受身の文章で書いていました。読む子どもは被害者で、戦争を起すのはいつも大人だから。でも韓国の作家に受身の文章では日本では読まれても韓国・中国やほかのアジアでは読まれまいだろうといわれました。平和は日本の加害の立場を抜きにして語れないと。それで、子どもを大人に発信する立場にして決意を述べた文章としてできた絵本が『へいわってどんなこと？』です。絵本ボランティアで出版事情の悪い国に翻訳シールを貼って送るときに、生徒が「この本好き。妹にあげたい」と言ったので覚えていました。いい本はきちんと読者をひきつけるんだなあと感じました。

絵本は小学生のためだけにあるわけではありません。絵と文章とその背景を考えながらゆっくりめくって楽しんでもらえたらと思います。